

－昭和100年・戦後80年－

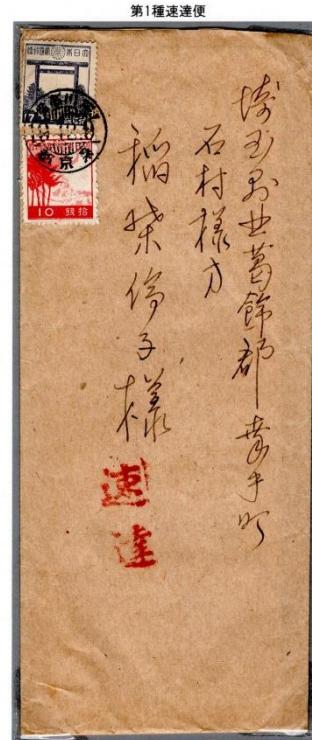
「終戦前後の東京深川地区の郵便印」

鎌倉 達敏 (S-31109・神奈川)

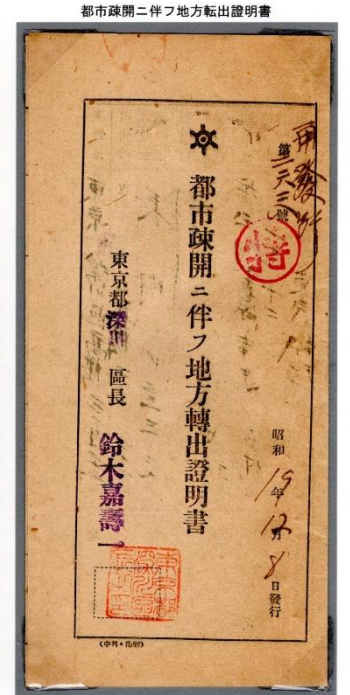
昭和の中で、終戦前後は物資不足、施設焼失、制度変更等により、郵便印の様式が大きく変化した時期です。東京大空襲により、壊滅的な被害を受けた東京深川地区では、家屋、他の公共施設と同様、郵便施設も焼失しました。

東京地区では、唯一深川局は、昭和20年4月廃局となり、集配業務は京橋局に移管され、戦後21年6月まで再開出来ませんでした。この間の郵便印(楯型印・機械印)の変化についてまとめています。

第2章 東京大空襲前の管内局 深川高橋 昭和19年  
深川管内局 深川富川町→深川高橋 三等無集配局 楯型日付印(C欄都道府県名)  
(昭和9年6月15日 局名改称)



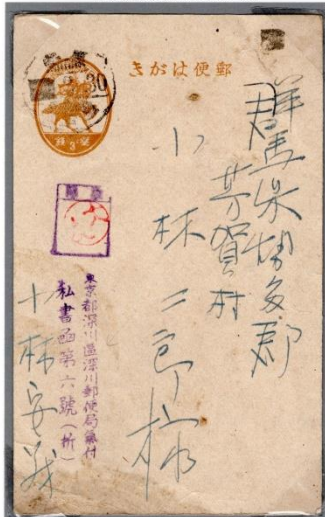
第1種速達便  
深川高橋 昭和19年12月9日 東京都 埼玉・幸手町宛  
第2次昭和17銭(靖国神社)貼り速達便



都市疎開ニ伴フ地方転出証明書  
東京都深川区長 昭和19年12月8日 発行  
深川区高橋三丁目より家族3名の人員疎開証明書  
(速達郵便の内容物)

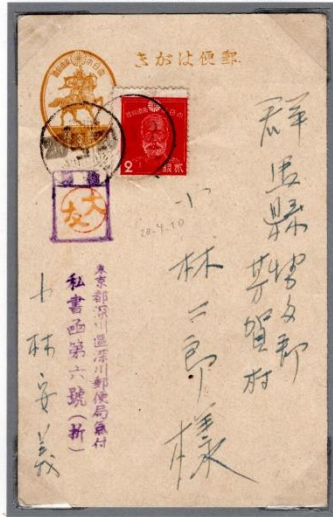
第3章 東京大空襲後の深川局 深川 昭和20年  
楯型日付印 C欄都道府県名(東京都)

第2種便(楯公3銭はがき)

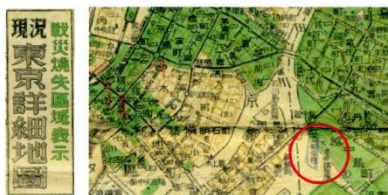


深川 昭和20年3月30日 東京都

第2種便(楯公3銭はがき+乃木2銭貼)



深川 昭和20年4月20日 東京都  
深川局の戦前最後期の使用例  
昭和20年4月1日より、はがき料金5銭へ改定

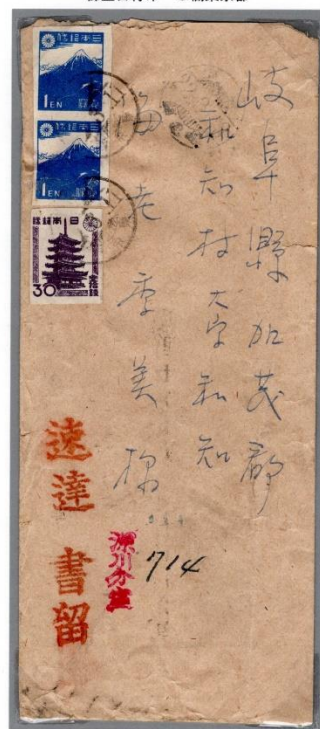


3月10日の東京大空襲により、深川地区(左図の右側)はほとんど消失した。それ以後、楯型印の活字状態が著しく悪化している。  
商船学校、水産講習所の鉄筋コンクリートの建物が残った。(赤丸)

昭和20年4月30日、深川局廃局、集配業務は京橋局へ移管される。

第4章 戦後復興・再開局 深川 昭和22年  
楯型日付印 (深川分室) C欄都道府県名

楯型日付印 C欄東京都



深川 昭和22年3月11日 東京都 深川分室  
第1次新昭和1円(北斎富士)×2、30銭(法隆寺)貼り  
合計：2円30銭 第一種書留速達便  
(1種便30銭+書留1円+速達1円：合計2円30銭)

楯型日付印(局名大) C欄東京都



深川 昭和22年4月6日 東京都  
はがき15銭+第3次昭和5銭(飛燕)、  
第1次新昭和30銭(法隆寺)貼り、第二種便  
米軍検閲済印 (Released by Censorship)  
昭和22年4月1日より、はがき料金50銭へ改定



楯型日付印(局名大) C欄東京都